



復興庁

Reconstruction Agency

ジモトで はたらく

保 護 者 版



令和3年1月発行

地元就職のススメ

地元か地元以外か。

働く場所は、就職を決めるときには頭を悩ませることの一つです。

実は地元には、地元ならではの特徴を生かし、事業を展開している企業がたくさんあるのです。また、その地域で働いているからこそ得られる喜びや魅力があるのです。

働くということにおいて、

「ジモトではらく」という選択をした人たちにスポットライトを当てて、

地元企業の仕事や地元で暮らす魅力を紹介します。今こそ「ジモトではらく」ことに注目してください。

Contents

地元就職のススメ	2
巻頭インタビュー	4
地元にもチャンスがある 自分らしく成長できる働き方を見つけよう	
横田 浩一さん 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科特任教授	
地元で働く魅力	
コロナ禍で関心が高まる地元での就職	8
都会と地方の違い	12
地元で働くことを考えよう	15



地元にもチャンスがある

自分らしく成長できる働き方を見つけよう

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科

特任教授 横田 浩一さん

Chance

「熱意あふれる社員」の割合が6%しかないという報告もあります。（図1）

その理由として、利益優先の企業体質や良い先輩ロールモデルがない、チャレンジできる機会が少ない、組織の閉塞感などが指摘されています。

実は、国が進める働き方改革は、ワークライフバランスや残業時間の削減など、働きやすさを向上させるもので、働きがいを向上させるものでは無いと考えています。これから

さらに、これから「人生100年時代」に向け、年金の受給額も少なくなることが予想されます。また、同じ会社に長く務める時代から、転職が当たり前の時代に向かっています。

こうした混沌とした状況下で、自分のキャリアについて悩み、不安を感じている若者がが多いことでしょう。私も学生から、「どういう仕事に就いたらいいか」「どんな企業を選べばいいのか」という相談をよく受けています。

将来について不安を感じる若者が多いことは、就職を取り巻く課題の一つと言えます。

私は仕事で全国各地を訪れ、若者の声を聞くと、地元で働きたいと思っている若者がたくさんいます。しかし「やりたい仕事が無い」「給料が安い」という理由で、東京や都市部に関心が移ってしまう。こうした構図がこれまでありました。

コロナ禍を機に、東京にいないと働けないという状況は崩れつつあり、「地方で働くこと」に関心が集まっているように感じて

コロナ禍で注目 「地方で働くこと」

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、世の中の仕組みが大きく変化しています。

それは、就職や働き方を取り巻く環境についても、例外ではありません。特にリモートワークやテレワーク、副業など、働き方の分野において、大企業でも改革が加速したと感じています。

リモートワークは、2020年4月の緊事態宣言を受け、都市部を中心に急速に拡大。東京では宣言の解除後も、出社率を半分以下まで減らしている企業があります。さらに、「アフターコロナ時代」を見据え、一部の大企業ではリモートワークの常態化や、本社を東京から地方に移転する試みなどが始まっています。

私が仕事で全国各地を訪れ、若者の声を聞くと、地元で働きたいと思っている若者がたくさんいます。しかし「やりたい仕事が無い」「給料が安い」という理由で、東京や都市部に関心が移ってしまう。こうした構図がこれまでありました。

コロナ禍を機に、東京にいないと働けないという状況は崩れつつあり、「地方で働くこと」に関心が集まっているように感じて

います。おそらく今の若者も、同じ感覺を抱いているのではないかでしょうか。

未来への不安と 働きがいの低さが課題

コロナ禍の影響により就職活動が大きく制限される中、学生たちは想像以上の苦労を経験しているはずです。

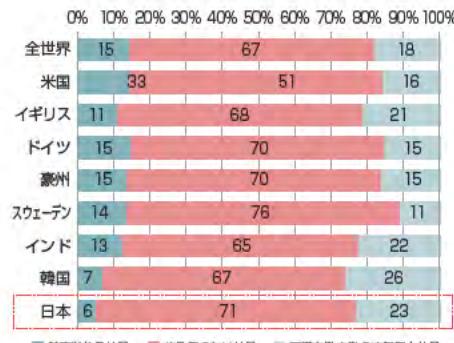
さらに、これから「人生100年時代」に向け、年金の受給額も少なくなることが予想されます。また、同じ会社に長く務める時代から、転職が当たり前の時代に向かっています。

こうした混沌とした状況下で、自分のキャリアについて悩み、不安を感じている若者が多いことでしょう。私も学生から、「どういう仕事に就いたらいいか」「どんな企業を選べばいいのか」という相談をよく受けています。

将来について不安を感じる若者が多いことは、就職を取り巻く課題の一つと言えます。

また、日本のビジネスパーソンの仕事に対するモチベーションの低さも問題となっています。東京の企業で働く人のモチベーション、つまり「働きがい」は、先進国の中でも最低といわれていて、ある海外の調査で、日本には

図1 世界各国の仕事への熱意度調査



「State of the Global Workplace (2017)」GALLUP社 より作成

実はあまり変わらない 東京と地方で働く意識

CAREER FORが行った「東京と地方都市それぞれで働く人へのアンケート調査」^{*1}によると、「働きやすさ」と「働きがい」を比較した結果、東京と地方では明確な差が表れませんでした。(図2)

この結果は、良い仕事が多く、平均年収も高い「働きがいを感じる東京」。そして、自宅と職場が近くワークライフバランスもとりやすい「働きやすさを感じる地方」という予想に反した意外な結果となりました。

こうした、実際に働く人の意識調査からも、地方で働くデメリットが少なくなっていることが増えた時代。自分の努力次第では、地方大企業で働くことは、大きな組織の中で成長できることに期待しがちです。しかし、小さい組織である地方の企業の方が、若いうちからさまざまな仕事や立場を経験でき、早く成長を実感することができると考えています。

また、大企業ではたくさんいる同僚やグローバルなビジネスを通して出会う人たちによって、多くの経験や人脈を獲得することができます。しかし、オンラインができることが増えた時代。自分の努力次第では、地方大企業で働くことは、大きな組織の中で成長できることに期待しがちです。しかし、小さい組織である地方の企業の方が、若いうちからさまざまな仕事や立場を経験でき、早く成長を実感することができると考えています。

これからは、転職や起業が当たり前の時代。ということは、自分の価値やスキルを上げることができる会社選びが重要になります。そのため、就職を希望する企業で自身が成長できるかどうかを見極める必要があります。

その目を鍛えるために、まずは将来何をしていているのか。もちろん、複数あっても構いません。「起業して社長になる」「牧場主になる」「ゲストハウスを経営する」など、お子様の夢や目標を思い描くサポートをしてあげてください。

長期的なビジョンを描いたら、実現のため

にこの1年で何を努力するのか考えることが重要。

将来起業したいのであれば、学生のうちからビジネスプランコンテストに応募したり、卒業後にスタートアップ企業^{*2}に就職したりと具体的な提案をしてあげてください。

取り組んだ結果、1年で目標が変わってしまったのも間題ありません。努力したことは、成果として残り、次に生かすことができます。まずは、行動に移すことです。

成長が安定を生む 地元企業にも光はある

安定よりも成長が大切
お子様の挑戦の後押しをお願いします

横田 浩一

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任教授

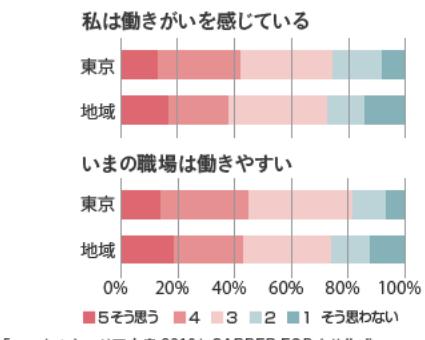
コロナ禍の影響もあって、これから若者のキャリアは親世代のキャリアが参考にならなくなっています。

この先50年、100年続く企業はどれくらいあるか分からず、混沌とした時代が来るかもしれません。大企業に入社してもリストラはあります。つまり、「大企業=安定」とは言いつづき時代に入りました。

そのため、大企業に就職するよりも、成長

とつて重要なになります。実力を身に付けた人は、その後どんな会社に転職してもやつていけるはずです。若い時の苦労が、その後の安定につながる可能性もあります。お子様に安定を望むのであれば、自ら厳しい道を歩もうとしているところ配に感じても、それを応援してあげることが大切。まさに「かわいい子には旅をさせろ」です。地元には、小さくても優秀な企業がたくさんあります。お子様と共に地元にも目を見てみてください。

図2 東京と地域の働きがい・働きやすさの比較



働きがいと働きやすさについて、「そう思う(5)」「ややそう思う(4)」の合計を比較すると、東京と地域で大きな差はなかった。

でも同様のことが可能だと思います。そう考えると地元就職のデメリットは、それほどないのではないかでしょうか。

「地方は東京より人が少ないが、声を掛けてくれる人はたくさんいる。地方の方が幸せを感じることができる」。これは、愛媛県で地域おこし協力隊に参加した学生の言葉です。

地方で働くメリットは、豊かな人間関係の

中で生きる喜びを強く感じられること。最近は、高い収入を得ることだけが幸せな生き方ではないと考えている若者が多いと感じています。

働きやすさや働きがいにあまり差がないわけですから、「東京か、地方か」と二者択一で悩む必要はないと思っています。地方と東京を行き来する「2拠点生活」をする人も、これからもっと増えていくはずです。



※1 東京と地方都市それぞれで働く人へのアンケート調査

CARRER FOR(事務局:一般社団法人 地域・人材共創機構)が「ローカルキャリア白書2019」の中で報告したアンケート調査。東京都と地方都市(岩手県釜石市、長野県塩尻市、岐阜県の一部、石川県七尾市、島根県雲南市)の18歳以上のビジネスパーソンなどが対象。P12に調査内容の一部を記載

地元で働く魅力

コロナ禍で関心が高まる地元での就職

新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに各企業が、テレワークやリモートワークに取り組んでいます。これに伴い、学生の地方就職への関心が高まりを見せています。

学生向け就職情報サイトを運営する大手企業の最新の調査によるところ、リモートワークなどで働く場所が自由になった場合、学生の2人に1人が地方での勤務や居住を希望しているという。

また、地元就職を希望する学生の割合はここ10年間で減少しているが、地元就職を希望しない学生の半数近くが、将来的な考えは「分

からない」と回答したという報告もある。

このように、将来的な地元就職の余地がうかがえる中、実際に地元就職を決めた人々は、どのようないで働いているのだろうか。これから紹介する3人は、それぞれ岩手・宮城・福島県の出身者。地元以外で就職を決めた後にリターンし、地元就職を果たした人たちである。

都会での生活を経験した上で故郷に戻り、地元で活躍する若者から、地元就職や地元で暮らす魅力について話を聞いた。



岩手県
釜石市出身

有限会社小島製菓

菊地 広隆
さん

地元の魅力をプロデュース
菓子店の若き社長

菊地広隆さんは有限会社小島製菓の3代目社長。震災後に過労で体調を崩した父に代わり2012年に家業を継いだ。

これまでの経営を見直し、新事

業を開拓。2014年には市内に直営のカフェをオープン。さらに、2019年のラグビーワールドカップ開催を盛り上げるために開発した「釜石ラグビーパイ」は、地元の土産品として定着した。

今後は、生食パンの製造や、お菓子をネットからオーダーメイドする事業を始めるという。「結果を出すと人は成長します。だから、これからもどんどんチャレンジしていきたいですね」

海外で和菓子を売る夢
カナダでの苦い経験

盛岡市内の高校を卒業後、首都圏の大学で学んだ菊地さんは、夏休みになると、当時アメリカに住んでいた姉をたびたび訪問した。姉がお世話になっていたアメリカ人実業家から「世界で和菓子のブームが来る。日本で経営とセールスを学びなさい」とアドバイスを受けた。海外での起業を志し、大学卒業後に外車販売店に就職。資金をためた後にカナダに渡った。

しかし、自作した大福はカナダ人に受け入れられなかつた。「良い



新工場の準備についてスタッフと打合せ。



保護者の方への
メッセージ

地元にも魅力的な企業はある
私はそんな企業を目指します

今はオンラインでさまざまなことができる時代です。東京でしかできないことは減り、地方でもできることが増えたと思っています。これからの進路選択は「どこで」ではなく「誰と」「何をするか」を考えることが大事です。

「地元の未来を担う若者に希望を与える」と「若者が夢を叶えられるまちにしたい」。そんな志を持った経営者や企業がみなさまの地域でも見つかることは必ずあります。だからこそ、お客様と共に地元で働くことを選択肢の一つとして考えてください。



株式会社気仙沼商会

熊谷 未悠

さん

順調に決まった就職先
突然襲った将来への不安

宮城県気仙沼市で、ガソリンスタンドの経営などを手掛ける株式会社気仙沼商会。同社で働く熊谷未悠さんは、総務人事課で新卒者採用を担当している。

福島県
南相馬市出身

株式会社野馬追の里

小川 有哉

さん

スタッフとの一体感にやりがい
サービスエリア施設の副店長

常磐道沿線のサービスエリア施設で副店長を務める小川有哉さん。行楽シーズンやお盆休みなどの繁忙期では、現場の指揮を執りながら、売店のレジ打ちや食堂のフォ



地元に帰ってきてからは、慣れ
芽生える故郷への愛

地元に帰ってきてからは、慣れ
芽生える故郷への愛



地元産野菜の産直コーナーの商品を整頓する。

地元生まれの熊谷さん、高校生ときは、「卒業したら仙台の大学に進学して、そのまま仙台に就職する」と漠然と考えていたという。大学4年生の時、仙台市内の広告代理店への就職が内定したが、未だに自分の将来像を思い描けなかつた。「このまま、社会人になつて良いのだろうか」と突然不安になりました。もう一度落ち着いて将来について考えることにした。この時、熊谷さんの脳裏をよぎったのが、故郷気仙沼だった。

地元の人の優しさに 安心感を抱く

地元生まれの熊谷さん、高校生ときは、「卒業したら仙台の大学に進学して、そのまま仙台に就職する」と漠然と考えていたという。大学4年生の時、仙台市内の広告代理店への就職が内定したが、未だに自分の将来像を思い描けなかつた。「このまま、社会人になつて良いのだろうか」と突然不安になりました。もう一度落ち着いて将来について考えることにした。この時、熊谷さんの脳裏をよぎったのが、故郷気仙沼だった。

「自分らしく」働ける会社

「仙台よりも生まれ育った気仙沼の方がやりたいことが見つかるかもしれない」と考えた熊谷さんは、インターネットで求人を検索し、名前を知っていた気仙沼商会の募集を見つけた。

参加した説明会では、自身に合った仕事について採用担当者と話し合うことができた。「自分に適した仕事に配属してくれるとても素敵な会社だなと思いました」と熊谷さん。この意見で同社に就職を決

め、仕事を通じて地域貢献したいという目標もできた。

仕事の時には、職場の人たちやお客様が家族のように打ち解けた態度で声をかけ接してくれる。それが地元で働く良さだと実感した熊谷さん。

「地元のみなさんの声と気持ちがとても心地良くて。安心できる自分の居場所が見つかり、就職活動中に悩んで本当に良かったなと思っています」と熊谷さんは、晴れやかな表情を浮かべた。



他の事業所へ書類を届けるため外出する。

地元で頑張るお子様の成長を見届けてください
保護者の方へのメッセージ

保護者の方への
メッセージ

過ごしやすい地元でお子様の成長を見届けてください

過ごしやすい地元でお子様の成長を見届けてください

親しだ土地と仲間に囲まれ余裕が持っている。「他県に住んで感じたことですが、福島の人は良い意味あまりガツガツしていないところもあって落ち着きますね」

オープン以来、サービスエリアの利用者数は年々伸びている。現在、コロナ禍の影響を受けているが、「大変だと思うけど、頑張つて!」という地元の声援が励みにつながっている。

40代、50代になつても、自分がどんな形で地元に貢献することができるのか。震災を機に芽生えた地元愛が小川さんの原動力となつていて。

冬は比較的温暖で雪も少なく、夏は海風で涼しい。高校生まで18年間を過ごした南相馬は、やはり居心地が良いですね。

私は帰省するたびに家族から「戻ってきてほしい」と言われていたので、南相馬で再就職が決ました時には、とても歓迎されました。でも、一度地元の外で働くことができたからこそ経験を積み、成長した姿を家族に見せることができたと思っています。

将来の夢はさまざま。途中で変わることもあります。お子様の意見に耳を傾け、いつでも相談に乗ってあげてください。



人と人とのつながりが深く、誰もが知り合いみたいなことは、みなさまの地域でもありませんか? 高校生の時は、そんな狭い社会がなんとなく嫌でした。でも、地元に戻つて就職した今は、両親をはじめ、家族のように接してくれることも、地元就職の良さかもしれない安心感があります。

元に戻つて就職した今は、両親をはじめ、家族のようになると守られるお客様、職場の上司に守られる安心感があります。

知り合いに見られている分、「がんばらなくちゃ!」と身が引き締まり、社会人として早く成長できるかもと思つています。

お子様の成長を直接感じられることも、地元就職の良さかもしれませんね。

都会と地方の違い

—働きがいの意識調査から—

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科
特任教授 横田 浩一さん

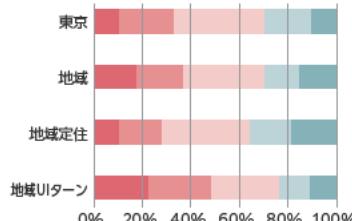


図4：私の職場の選択を「やりたいこと」で決めてきた

このことから、「東京か」「地方か」という場所だけで仕事を選択しなくても良い環境が整いつつあることが、調査結果からもうかがえます。

ここに住みたいという意思が働きがいに影響する

地方にUIターンした人は、東京や地方にずっといる人（地域定住）と比べて働きがいや仕事満足度が高いという結果になりました。（図2、3）

さらに、職場の選択を「やりたいこ

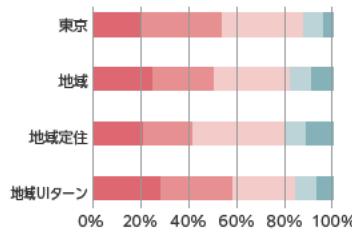


図6：仕事を通じて人間として成長できる

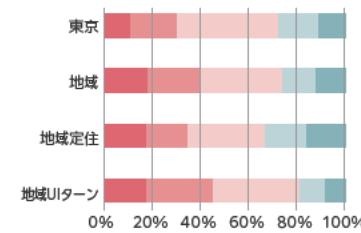


図5：私の仕事は地域（社会）に貢献している

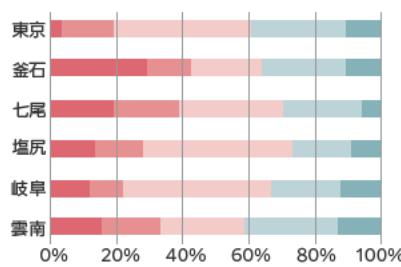


図7：私の仕事は周りに影響を与える

「私の仕事は周りに大きな影響を与える」と感じている人は、地方の方が高くなりました。（図7）

地方の仕事は自分の影響力を実感できる

地方にUIターンした人は「地元に戻りたい」「この地域に住みたい」と移住や仕事を決め、高いモチベーションを維持しながら仕事に取り組んでいます。こうした強い意志と充実感が働きがいや仕事満足度に表れています。

東京と地方都市それぞれで働く人へのアンケート調査

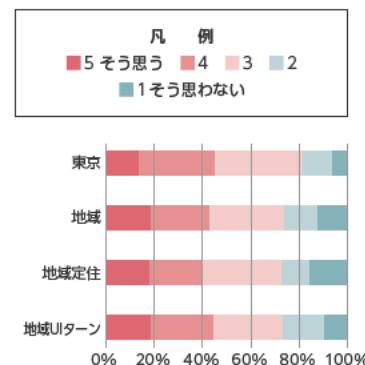


図1：いまの職場は働きやすい

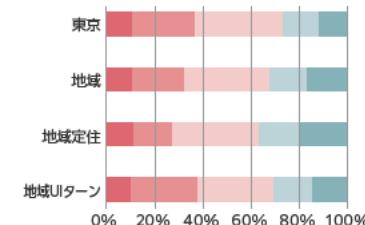


図3：いまの仕事に満足している

働きやすさ、働きがい、仕事への満足度について、「そう思う（5）」と「ややそう思う（4）」を足した値は、東京と地方（地域）でほぼ変わりませんでした。（図1、2、3）

働きやすさと働きがい
仕事満足度は変わらない

調査概要

CARRIER FOR (事務局：一般社団法人 地域・人材共創機構) が「ローカルキャリア白書2019」の中で報告したアンケート調査。東京都と地方都市（岩手県釜石市、長野県塩尻市、岐阜県の一部、石川県七尾市、島根県雲南市）の18歳以上のビジネスパーソンから577サンプルを回収。

また、UIターン移住者のサンプルをより多く集めるため、125サンプルを回収した。

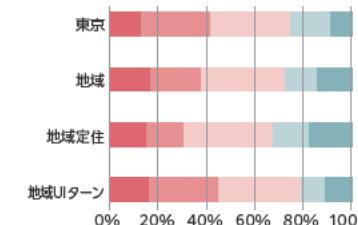
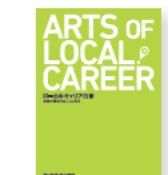


図2：私は働きがいを感じている

仕事の規模や動くお金の額は、東京の方が大きいことが想像できますが、周囲への影響については、地方の方が実感できるという結果となりました。

地方では、地域のさまざまな人と関わりながら、プロジェクトを成し遂げることが多く、その時に「ありがとう」と感謝されたり、自分の成果が目に見えやすかつたりすることが、影響の実感につながつたと考えられます。

一方、東京の場合は、大きな組織の

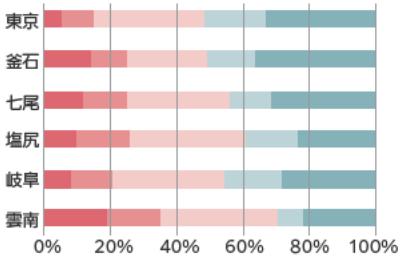


図8：定期的にあって話す地域コミュニティがある

中でビジネスが動くため、個人の影響を実感しづらいのかもしれません。

人のつながりを強く感じる 地方での働き方

地方では、身近な地域コミュニティを持つているという回答が東京よりも高くなりました。(図8)

市民や行政、NPOなど、多種多様な人が関わっている地方では、人とのつながりが強く、東京の場合は、ビジネスライクの付き合いもあり、どちらかといえば関係が薄いと考えられ、人のつながりという観点からは、地方と東京で違いが見られました。

被災地で強く感じる 人への感謝と働きがい

「人生において感謝することがたくさんある」という項目について、釜石市では半数以上の人々が「そう思う」と

回答しています。(図9)

これは、震災復興に向けたつながりや、共助の経験が反映されたと考えられます。

また、釜石では、これまで復興支援に多くのボランティアが集まり、そのまま定住した人が多くいます。「復興のため」という明確な目的をもって移住し、地域の人々と共に働いている被災地は、どの地域よりも働きがいを実感できる場所ではないでしょうか。

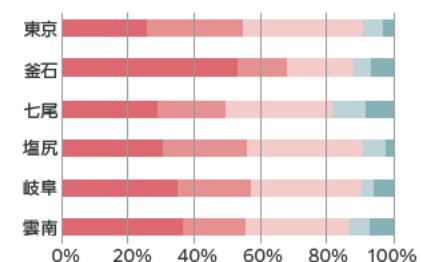


図9：私は人生において感謝することが多い

地元で働くことを考えよう

若い時は、物や情報にあふれ便利な都会生活にあこがれを抱くのは仕方のないこと。就職活動をする学生も、地元を出て就職したいと、首都圏の企業に関心を持ってしまいがちです。

一方、地方にも魅力的な企業や、地元に貢献できる働きがいのある仕事がたくさんあります。また、地元では、自然豊かな住み慣れた場所で、家族や友達と共に安心して暮らすことができるはずです。

この冊子に登場したみなさんは、地元や移住先に魅力を感じながら充実した毎日を送っています。みんなの地域でも、地元の魅力を知っている社会人がきっといるはず。

こうした人たちから直接話を聞いて、これまで気づかなかつた「ジモトではたらく」魅力について考えてみましょう。



問い合わせ先

復興庁雇用促進班

TEL. 03-6328-0274